

市民がつくる環境都市こまき



こまき環境広報

編集:こまき環境市民会議

第2弾!

SDGs って何だろう?



「誰ひとり取り残さない」社会を実現するために、今ある問題を解決するための17の目標を「SDGs (エスディージーズ)」といいます。

こまき環境広報第60号では、このSDGs について取り上げ、「14 海の豊かさを守ろう」について紹介しました。今回は、「13 気候変動に具体的な対策を」について紹介します。



気候変動とは、長い期間持続する気候状態の変化を指しています。近年、気温や海水面の上昇、集中豪雨による災害など私たちの生活にもさまざまな影響があり、これは人間の活動の中で、排出された二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化が原因とされています。これらの問題を解決するための目標が「13 気候変動に具体的な対策を」です。

気候変動の影響

① 年平均気温の上昇

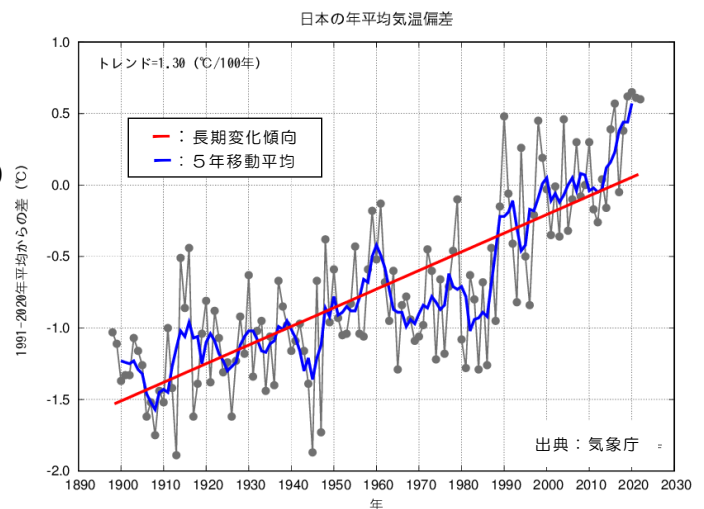
日本の年平均気温は、2022年時点で、100年前と比べ既に約1.3℃上昇しています。

これは世界の年平均気温の上昇(約0.7℃)よりも高い数値となっており、このまま何もしなければ、気温はさらに上昇すると言われています。

② 猛暑日・真夏日の日数の増加

全国の猛暑日の年間日数は増加しており、100年あたりで約2.1日増加しています。また、真夏日についても、100年あたり約7日増加しています。

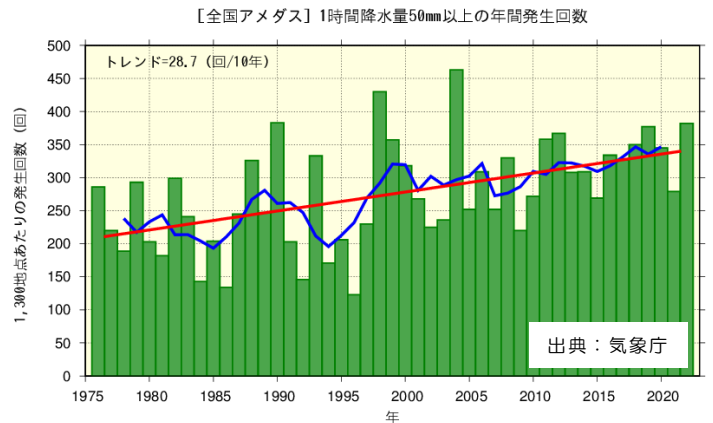
熱中症で救急搬送された方は、2010年以降大きく増加しており、特に記録的な猛暑となった2018年の熱中症による救急搬送者数は例年を大きく上回りました。



③ 短時間に強い雨が降る日の増加

1時間の降水量が50mm以上の大雨の年間発生回数は増加しており、最近10年間（2013～2022年）の平均年間発生回数は、統計期間の最初の10年間（1976～1985年）の平均年間発生回数と比べて約1.5倍に増加しています。

近年、線状降水帯による大雨が原因で、停電や土砂災害が起こるなど、私たちの生活にも大きな影響が生じています。



私たちにできること

気候変動の影響を少なくするためには、「緩和策」と「適応策」の2つの対策が必要です。

「緩和」とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガス排出量を削減し、気候変動を極力抑制することを言い、「適応」とは、緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対して、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくことを言います。

緩和策については、温室効果ガス排出量を削減するだけでなく、節電や省エネは家計の節約にもつながります。

2つの対策に関して、私たちにできることを考え、できることから始めてみましょう！

緩和策の例				
環境にやさしい製品を選択する	節電・節水を心がける	緑を増やす	食べ残しを減らす（食品ロスの削減）	環境にやさしい車の選択や、エコドライブを心がける

適応策の例				
こまめに水分補給を行い、熱中症に気を付ける	ハザードマップを確認するなど、災害に備える	暑いときは適切にエアコンを使用する	再生可能エネルギーや蓄電池等を導入した災害に強い家	感染症予防のため、虫刺されに注意する

会員のつばやき

私たちは便利で楽な生活を求め地球をいじめて来ました。今からでも遅くありません。誰もが気候変動の抑制に貢献できます。できることから始めませんか？